

教育課程特例校における特別の教育課程の編成の方針等について

1 特別の教育課程を開始した日

令和6年4月1日

2 特別の教育課程の概要

全学年において「人とふれあう 生き方に学ぶ」をキーワードに「地域コミュニケーション科」を新設する。

(1) 地域コミュニケーション科の3つの視点

- ・地域の人々との交流を通して生き方を学ぶ。
- ・地域の人々との関わりの中でシビックプライドを養う。
- ・コミュニケーションスキルの向上を図る。

(2) 学習内容

○ふるさと鬼北の魅力を実感できる教育活動の推進

地域の歴史、産業、伝統文化等に関わる人々などとの交流により、地域をより広く深く学習するとともに、その人たちの生き方、考え方を学ぶ。

○地域と連携した教育活動の推進

高校生との交流や小学生の学習支援を行ったり、地域のよさを発信する活動に取り組んだりすることを通して、地域の人々との交流を広げ、地域貢献の意義と喜びを体感する。

○夢をはぐくむライフキャリア教育の推進

地域の青年や県内の大学生との交流を通して、自らの生き方を考える機会とするとともに、町内各職場で働く人々の思いにふれる学習を通して多様な価値観を知る。

3 特別の教育課程を編成する際の各教科の授業時数

区分		第1学年	第2学年	第3学年
各教科の授業時数	国語	140	140	105
	社会	105	105	140
	数学	140	105	140
	理科	105	140	140
	音楽	45	35	35
	美術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語	140	140	140
特別の教科である道徳の授業時数		35	35	35
総合的な学習の時間の授業時数		20	40	40
特別活動の授業時数		35	35	35
地域コミュニケーション科の授業時数 (新設教科)		30	30	30
総授業時数		1015	1015	1015

※各学年とも「総合的な学習の時間」から年間30時間を「地域コミュニケーション科」に充てる。

4 特別の教科を編成して教育を行う必要性

鬼北町は中山間地域にある人口約9千人の町である。高校卒業後は進学や就職により町を離れる若者も多く、少子・高齢化が進み、そのことに伴う様々な地域課題がある。こうした現状から、住民の、町に対する肯定感の低下が懸念され、生徒の町に対する肯定感への影響も危惧される。一方、町内にはそれぞれの立場で仕事や町づくりに生き生きと取り組み、豊かな自然と地域コミュニティの中で心豊かに暮らしている人々もおり、その人々や、夢や目標をもって学んでいる県内大学生との交流により、多様な価値観を学ぶライフキャリア教育を推進する。これからの予測しにくい時代を生きていく生徒たちには、「将来何になりたいか」という職業観を育成する「ワークキャリア」の観点だけでなく、「将来どう生きていくか」という人生観を学ぶ「ライフキャリア」の視点での学びも必要だと考えており、その学びを焦点化するための特別の教科とする。また、これからの時代に必要とされる資質・能力の一つにコミュニケーションスキルがあり、多くの人たちに接するこの学習において、体験的・実践的にその向上を図っていききたい。

なお、特別の教育課程を編成して「地域コミュニケーション科」を設け、積極的な発信にも努めることにより、学習のアピール力を高め、そのことが生徒自身の意識や意欲のみならず、地域への波及にもつながることが期待でき、「学校を核とした地域づくり」の観点からも意義があると考えている。

5 特別の教育課程を編成する学校

鬼北町立広見中学校